

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成24年3月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078000082		
法人名	有限会社 まんてん		
事業所名	グループホーム まんてん		
所在地	福岡県久留米市三潴町草場33の1		
自己評価作成日	平成24年2月7日	評価結果市町村受理日	平成24年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成24年3月2日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭に近い雰囲気をつくりだすようこころがけている。</p>
----------------------------------

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設9年目を迎えた“グループホームまんてん”のリビングから、子供たちの声が聞かれるようになった。近くに新しくできた新興住宅地の子供たちで、「おじいちゃん、おばあちゃんに会いたいから来た～」と言って、手作りのゲームなどをご利用者として下さった。2時間近く楽しいひと時を過ごしていかれ、ご利用者の笑顔が溢れる1日となった。その子ども達も暮らすホーム周辺には、季節を感じられる木々や大きな川もあり、職員が車いすを押してご利用者との散歩を楽しまれている。1日2回の散歩を日課とされている方もおられ、お墓参りや買い物などの希望の場所にはホーム長と一緒に連れられている。23年5月には住診と訪問看護も利用しながら、開設以来初めての看取りケアが行われた。家族が持ってきて下さった“おはぎ”を食べられ、職員全員で精神誠意のケアが続けられた。同じく平成23年、「うちの職員は満点(まんてん)」と、いつも素敵な笑顔で話して下さっていた施設長が他界された。職員の心の寂しさは埋められるものではないが、施設長の思いを受け継ぎ、ホーム長と職員が力を合わせ、ご利用者と共に1日1日を大切に歩み続けている。ホームの台所では、今日も愛情いっぱいのお料理が作られている。</p>
---

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員は理念と経営方針を理解し、利用者が地域に馴染めるよう近隣の方々とのお付き合いを大切にしている。	「一人ひとりを大切に、優しい笑顔、人に優しく自分に厳しく」という理念の基、ミーティングの時や日々の業務の中でケアについて話し合い、ご本人の思いを大切にされたケアの実践に努めている。ご利用者同士の関係性にも配慮し、お互いが心地よく生活できるための環境改善や、職員が間に入る等の取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員には、近隣の方へ挨拶はもちろんの事、遊びに来ていただけるよう声掛けも行っている。	近くの方から野菜を頂く事もある。職員も「お茶飲みに来て下さい」とお誘いし、ホームに来て下さっており、ホームのバーベキューには隣の方も参加して下さい。近所の子供たちが遊びに来て下さり、ご利用者と一緒に楽しいひと時を過ごして下さい、老人会主催の行事(だご汁会等)には、ご利用者も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等において、区長・老人会会長・地域住民代表・児童民生委員の方々に対して認知症という病気に対して理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年、外部評価の結果後の運営推進会議で、報告尾行うと共に、それに対して意見を頂きサービス向上に生かしている。	ご利用者、家族、老人会会長、民生委員、市の方、地域包括の方等に参加頂き、23年度から2か月に1回、開催されるようになった。ご利用者からも“満足しています”と会議で言って下さった。災害時の備蓄についても“3日分を…”等のアドバイスも頂き、今後は消防団の方の参加を呼びかけていく予定にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や会議の時に相談し、助言を頂いている。	ホーム長は包括圏域ごとの交流会にも出席し、市の担当者との交流を図っている。看取りケアの相談をした時も、看取りケアの交流会の情報を市の方から教えて頂いた。市の担当者の方からは、メールで研修情報等が送られてきており、良い連携が続けられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び職員は、危険性・緊急性・一時性が無い場合は、身体拘束を行わない介護を実践している。	職員は身体拘束にあたる行為を理解し、実践している。夜間以外、ドアが開いたら鳴るセンサーも付けられ、玄関の鍵も開錠し自由に入出入りして頂いている。ご利用者の体調や気分により、転倒の危険性がある方については、職員の見守りを強化すると共に、所在確認を担当する職員も配置された。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員は、ミーティングにおいて、虐待について内部研修をすると共に、どのような場合においても利用者が虐待される事の無い様に注意防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、ミーティングにおいて説明すると共に、冊子をいつでも読めるよう設置している。	外部の研修を受講し、ホーム内研修の場などで職員全員に説明を行っており、内部研修でもホーム長が資料を配布し、説明している。以前は、家族会の場でも制度の説明が行われた。現在、制度の利用者はおられないが、新しい方にも説明予定にしており、必要な方に制度の活用ができる支援を行うようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行うと共に、書面上で同意を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年に2回開催し、意見要望を聞いていると共に、苦情がある場合は公的な相談窓口があることを、入居時に説明している。	2ヶ月に1回、写真やお手紙を家族に郵送し、ホームでの様子をお伝えしている。家族の訪問時や電話の時に希望を伺うようにしているが、家族からはお褒めの言葉を頂くことが多い。入居当初に帰宅願望が見られる時もあり、家族にも面会に来て頂いたり、家族とも協力し、ご本人の安心に繋げている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時や朝夕の申し送り時に、意見や提案を聞き、運営に反映させている。	日常の業務や内部研修、毎月のミーティングの時に、職員からご利用者のケア方法について質問が上がることも多い。職員個々に意見を聞く機会も作っており、活発な意見交換が行われている。ご利用者への対応・行事運営・仕事上の課題等の意見があがり、より良い対策を検討し、実行に移している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績に関しては、賞与に反映させている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に関しては、一切の偏見はしていない。又、職員個々の能力を活かせるよう努めている。	採用時には、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することなく、明るく、会話が好きな方などを大切にしている。料理や踊りなど、職員も個々の特技があり、毎日のお食事作りの場などで力を発揮して頂いている。希望休が取れるよう勤務調整が行われ、働きやすい環境でもあり、職員の離職はない。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修を行っている。	ホーム長は、月1回のミーティング時に、理念と合わせて“一人ひとりを大切に”と言う事を伝えており、23年2月には権利擁護、23年7月には虐待について、ホーム長がネットで資料を検索し、ご利用者の人権について職員に話された。職員の学びの機会にもなっており、今後は更に職員の意見も聞いていく予定にしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成すると共に、できるだけ個人のスキルアップが計れるよう勤めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年3回行われている事業所交流会に参加することにより、他事業所の良いところを学んでいる。		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートに本人の情報・要望を書き込み職員全員に周知し関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に御家族の要望を聞き、できる限り、意に添えるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の時点で、他のサービスを含めた提案を行っている。。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には「家族」と言う言葉を念頭に日々活動を行うよう教育している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム職員・ご家族が協力して利用者本人を支えていけるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者に行きたい場所を聞いたり、あれば車で同行している。	ご利用者の行きたい所等を聞くようにしており、希望の場所にはホーム長がお連れしている。馴染みの人や場所との関係を大切にされており、家族の協力で自宅や買い物に出かけたり、ホーム長がお墓参りにもお連れした。馴染みの方のお話が出る事も多く、家族と親せきの方の訪問もあり、居室で寛がれている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員一人ひとりが把握し、利用者間でトラブルがあった場合には必ず職員が仲裁し仲を取り持っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、時折、近況を尋ねたりしている。		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の性格・生活歴・経験等を考慮してできる限り本人の意向に沿って生活できるよう取り組んでいる。	ソファなどでゆったり過ごす時間が多く、ご本人の思いを伺うようにしている。家族の訪問時にも要望を伝えて頂いている。言葉での表現が難しい方もおられるが、入居が長い方も多く、表情や行動からご本人の気持ちが汲み取れるようになってきている。「家に帰りたい」という方もおられ、年末年始に帰られた方もおられる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴、経験、出来事などできる限りの情報を収集し、御家族及びご本人と話し合い、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の日誌を作成し、その日の心身状態、1日の過ごし方など職員全員が把握できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成・見直しについては、ミーティングにおいて全職員で話し合い、より良い介護方法を選択するようにしている。	ご本人の得意なことや生活歴を大切にされている。課題・目標には“地域で暮らす”という視点があり、塗り絵や編み物、洗濯物たたみ、毎日の散歩等、ご利用者の役割や楽しみと共に、家族の役割も計画に盛り込まれている。日課計画表には具体的なケア内容が記載され、ケアの統一が図られている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌を個別に作成し、現在の利用者の心身状態を職員全員が把握している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者及び御家族のニーズに対しては、できる限り対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協・区長・老人会・児童民生委員・ボランティアの方々、警察消防機関等と協力しながら支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用前に本人又はご家族に選んでいただいている。	職員が受診介助し、医師への報告を行っており、受診結果は家族と共有できている。週1回の往診時には水分量等の指示も受けており、訪問看護師からのアドバイスも頂いている。24時間体制で連携が取れており、体調の変容があった時は、ホームの看護師が主治医に連絡し、病気の早期治療に繋げている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職の日々の気づきは、舞朝夕の申し送り時、特変事、ミーティング時などで看護職員に相談し、利用者の健康保持に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院時には必ず職員が同行しドクターとの情報交換を行っている。入院中も病院へ訪問し、利用者の状態を把握するよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所・御家族・御利用者・医療機関と連携をとりながら終末期のケアに取り組むことを御家族、ご本人に説明し納得していただいている。	契約時に“看取り介護に関する指針”に基づいて説明を行い、同意を頂いており、入居時の家族アンケートでは「最期は病院で…」という意向も多い。「医療処置は望まず、ホームで自然に最期まで…」という意向の方がおられ、往診と訪問看護も利用しながら、23年5月に初めての看取りケアが行われた。家族が持参下さった“おはぎ”を食べて頂く等、精神誠意のケアが行われた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員により、日々の活動の中で執り行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通常年2回の避難訓練を行っている。	ご利用者の方も参加して、年に2回、昼夜を想定した避難訓練が行われ、年に1回は消防署の指導も受けている。ホームの第一避難場所として提供頂いている隣家の方も訓練にお誘いしている。近隣の方に災害時の協力依頼を行っており、協力体制は整えられている。3日分の飲料水、冷凍米を備蓄している。	
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者がなじみの関係にはあるものの言葉かけには注意するよう指導している。	職員は、ご利用者に尊敬の念を持って接しておられ、日々のケアの中でも、ご利用者の自尊心を傷つけない声かけを心がけている。馴染みの関係もあり、「親しき仲にも礼儀あり」と言う事も伝えている。個人情報の取り扱いについても職員全員で注意を払い、情報漏洩しない取り組みが続けられている。	馴染みの関係にもなっており、時に自分の言動を反省する場面があるとの事。あらためて「親しき仲にも礼儀あり」と言う言葉の意味を職員が振り返り、言葉の一つ一つを大切に使う予定にしている。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、何事においても最初は本人が選択できるよう言葉をかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れはあるものの、無理にその流れに乗せるような対応はしていない。利用者個々のペースを大切にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者・ご家族に納得していただいた上で訪問理容を利用していただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をその場その場で利用者の意見を取り入れながら立てたり、利用者に豆の皮むきや、テーブル拭きを手伝ってもらっている。	ご利用者と一緒に食材の買い出しに行き、調理担当の職員が、愛情たっぷりの料理を作られている。畑で採れた野菜(茄子・ねぎ・ビーツなど)や旬のものを食材に使われており、ホーム長も一緒に食べられている。ご利用者には調理の下ごしらえやテーブル拭きなど、できることをして頂いている。	今後も引き続き、ホームの畑にお芋などを植え、収穫時には、遊びに来て下さる地域の子供達を招待し、一緒に芋掘りを楽しむことができると考えられている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎日個々に記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの支援に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の個々の排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄できるよう対応している。	日中はトイレでの排泄を心がけ、失禁が目立ってきた方にも、極力オムツを使用しないよう努めている。個別の誘導を行う事で失敗もほとんどなくなり、ご本人も喜ばれている。羞恥心への配慮も行い、排泄時の声かけも小さくしている。カーテンをして、さりげなく見守りを行い、1人で排泄できる支援も行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便・排泄管理を行っており、必要な場合には、かかりつけ医に相談している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、その日以外に希望があれば対応している。	洗身時も自立支援を心がけ、できる範囲はご自分で洗って頂いている。入浴時は昔話を楽しまれ、入浴を拒まれていた方も、「気持ちよかった～」という声が聞かれている。“仲の良い方同士で入りたい”という方もおられ、足浴等を一緒に楽しむ等の企画をしていく予定である。季節に応じてみかん湯や菖蒲湯も行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の自由に休息を取っていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の介護日誌に薬の用法、用途を添付しており職員船員が把握している。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし草花の手入れ、草取り、洗濯物を干したり畳んだり手伝っていただいております、利用者に笑顔が見られる。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は利用者一人ひとりに聞いて支援している。普段行けない場所への外出は職員・利用者全員で話し合って場所を決めている。	1日2回の散歩を日課とされている方もおられる。ホーム周辺には季節を感じられる木々(柿の木等)もあり、職員が車いすを押して散歩を楽しまれている。季節に応じた外出も行かれており、石橋文化センターのバラ園や中山大藤祭りにお弁当を持って出かけるなど、ご利用者全員で気分転換ができる機会を作られている。外出をお好きでない方にはベランダで外気浴をして頂いている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が難しい方は、買い物する時にホーム側が立て替えている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使っていただいている。手紙も希望があれば支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植木、草花、装飾品、人形、四季折々の写真、利用者の日々の写真、手作り作品等を全体に取り入れ明るく和やかな空間作りに心がけている。	23年度、リビング横の和室をフローリングに変更し、リビングを広く使えるようにした。車いすの方も移動がしやすくなり、ご利用者同士の関係性に配慮した空間作りが行いやすくなった。リビングは明るく、観葉植物も育ち、光の調節や換気も適宜行われている。ホームの庭には芝が植えられ、隣の方も一緒にバーベキュー等も楽しまれた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間やダイニング、廊下などソファーや椅子を設置し気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	サービス利用前に極力使い慣れたものを持ち込んでいただくようご家族に要望している。	ホームの備え付けはベット、カーテン、エアコン、照明となっていて、入居の際に家族に協力して頂き、自宅で使っていた寝具やタンス、座椅子、テレビなどを持ち込まれている。自由にレイアウトもして頂いており、ご利用者が居心地良く過ごして頂けるように工夫されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室及び共有空間において、利用者にとって障害物を極力排除し、且つ安全に移動できるよう勤めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名: グループホーム まんてん

作成日: 平成 24 年 3 月 21 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	馴染みの関係にもなっており、時に自分の言動を反省する場面があるとの事。あらためて「親しき仲にも礼儀あり」と言う言葉の意味を職員が振り返り、言葉の一つ一つを大切に使う予定にしている。	職員には、家族と言う言葉を念頭に活動するように指導しているが、時折、馴れ合いすぎた言葉が出る場面もあり、今後職員の意識高揚を図り、利用者様に対して失礼の無いよう努める。	月一回のミーティングにおいて、自己反省の場を設けると共に、日々の活動で注意喚起を職員間で行う。	2 ヶ月
2	42	今後も引き続き、ホームの畑にお芋などを植え、収穫時には、遊びに来てくださる地域の子供たちを招待し、一緒に芋ほりを楽しむことができると考えられている。	食事を楽しむことのできる支援として、食事をする以前の過程を大事にして行こうと考えている。畑を活用し利用者様の、楽しみごとを増やしていく。	今までは、夏野菜だけを畑で作っていたが、今後は年間を通して、畑を活用し利用者様と一緒に食材を作成していく。	12 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月